

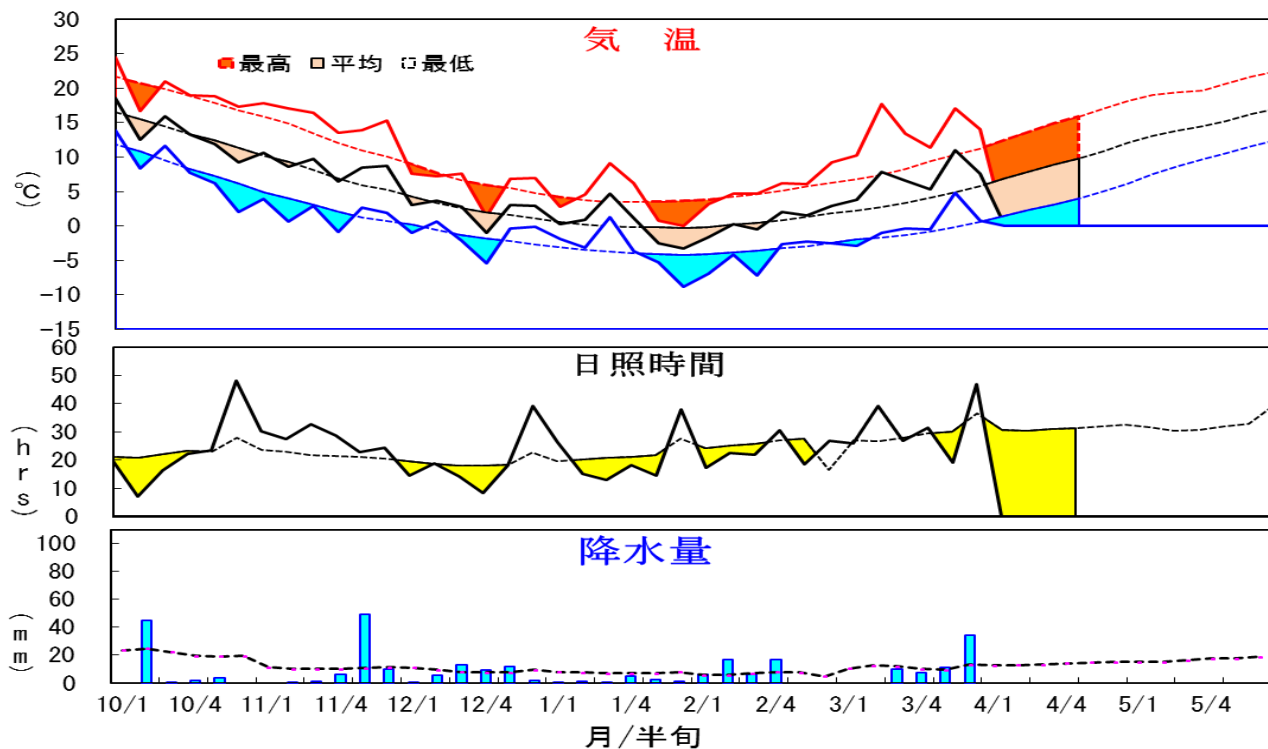
麦作情報第4号

令和5年 4月 4日：JA全農みやぎ

～出穂は大麦では2～5日，小麦では5～7日早まる見込み～

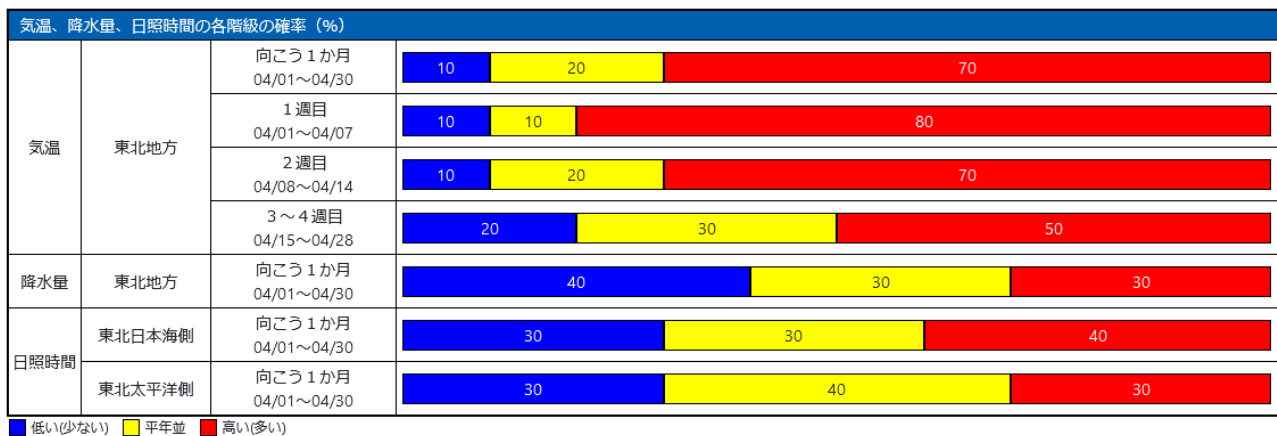
～追肥等の春作業は 早めに準備を！～

1 これまでの気象経過



2 東北地方の1か月予報【4月1日～4月30日までの天候見通し 気象庁HPより】

- ・東北太平洋側では，天気は数日の周期で変わり，平年と同様に晴れの日が多い。期間の前半は，気温がかなり高くなる見込み。
- ・気温は，高い確率 70%，平年並みの確率 20%，低い確率 10%。
- ・降水量は，多い若しくは平年並みの確率 30%，少ない確率 40%。
- ・日照時間は，多い若しくは少ない確率 30%，平年並みの確率 40%。



3 生育状況

(1) 古川農業試験場内 作況試験ほ場 (3月20日調査, 画像は3月23日現在)

- ・ 中旬播種区, 下旬播種区とも, 草丈及び茎数は, どの品種も平年を上回っている。
- ・ 葉数も, 平年並み~上回っている。

	品種・区分	草丈			茎数			葉数		
		本年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (本/m ²)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (枚)	前年差 (枚)	平年差 (枚)
大麦	シュンライ 中旬	15.8	147	118	1008	102	107	8.4	2.0	1.1
	同 下旬	11.8	157	131	903	154	119	7.1	1.7	1.2
	ミノリムギ中旬	15.7	133	115	1155	113	118	8.6	2.2	0.9
	同 下旬	13.1	162	129	956	137	128	6.9	1.0	0.6
小麦	シラネコムギ中旬	15.5	134	104	1041	111	114	7.7	0.5	▲ 0.1
	同 下旬	15.7	196	142	1215	161	163	7.6	1.7	1.1
	夏黄金 中旬	13.7	146	114	1103	147	114	8.4	1.3	1.1
	同 下旬	12.5	160	138	722	156	116	7.4	1.5	1.4

注1) 中旬は10月19日, 下旬は10月31日に播種。

注2) 中旬播種区の平年値は, 過去7か年中の最高値と最低値を除いた5か年の平均値。

注3) 「夏黄金」の中旬播種区は平成28年播種から供試のため, 平年値は過去5か年の平均値。

注4) 下旬播種区は平成29年播種から供試のため, 平年値は過去5か年の平均値。

- ・ 大麦の幼穂長は, 平年より長く, 生育ステージは平年よりも早く経過している。
- ・ 小麦の幼穂長は, 平年より長く, 3月上旬~中旬に幼穂形成始期を迎えた。生育ステージは平年よりも早く経過している。

	品種・区分	幼穂長			幼穂形成始期		
		本年 (mm)	前年差 (mm)	平年差 (mm)	本年 (月日)	前年 (月日)	平年 (月日)
大麦	シュンライ 中旬	4.8	2.8	1.9	1/5	2/26	2/1
	同 下旬	2.6	1.4	0.8	3/2	3/14	3/6
	ミノリムギ 中旬	3.4	1.6	0.8	1/14	3/2	2/12
	同 下旬	2.3	1.2	0.5	3/2	3/16	3/7
小麦	シラネコムギ 中旬	2.3	1.4	0.9	3/6	3/24	3/7
	同 下旬	1.6	1.3	0.9	3/11	3/30	3/23
	夏黄金 中旬	2.7	1.9	1.4	3/4	3/26	3/10
	同 下旬	1.7	1.3	0.9	3/11	3/30	3/24

注1) 中旬播種区の平年値は、過去7か年中の最高値と最低値を除いた5か年の平均値。

注2) 「夏黄金」の中旬播種区は平成28年播種から供試のため、平年値は過去5か年の平均値。

注3) 下旬播種区は平成29年播種から供試のため、平年値は過去5か年の平均値。

注4) 幼穂形成始期: 幼穂長が1mmに達した日。



【作況試験 シュンライ 10月19日播種】



【作況試験 シュンライ 10月31日播種】



【作況試験 ミノリムギ 10月19日播種】



【作況試験 ミノリムギ 10月31日播種】



【作況試験 シラネコムギ 10月19日播種】



【作況試験 シラネコムギ 10月31日播種】



【作況試験 夏黄金 10月19日播種】

【作況試験 夏黄金 10月31日播種】

・出穂期の予測は、大麦では平年より2～5日、小麦では平年より5～7日早い見込みである。

減数分裂期、出穂期、開花期の本年予測値

古試【作況試験】

	品種・区分	減数分裂期			出穂期			開花期		
		本年 (月日)	前年 (月日)	平年 (月日)	本年 (月日)	前年 (月日)	平年 (月日)	本年 (月日)	前年 (月日)	平年 (月日)
大麦	シュンライ 中旬	4/12	4/16	4/16	4/21	4/27	4/25	4/29	5/4	5/2
	同 下旬	4/19	4/22	4/20	4/27	5/1	5/1	5/3	5/6	5/8
	ミノリムギ 中旬	4/17	4/23	4/20	4/27	5/1	4/29	5/3	5/5	5/5
	同 下旬	4/21	4/24	4/23	4/30	5/4	5/5	5/5	5/7	5/10
小麦	シラネコムギ 中旬	4/18	4/26	4/26	4/30	5/7	5/5	5/11	5/15	5/15
	同 下旬	4/21	4/27	4/28	5/2	5/8	5/9	5/13	5/18	5/18
	夏黄金 中旬	4/18	4/27	4/27	4/28	5/8	5/6	5/9	5/15	5/15
	同 下旬	4/22	4/29	4/28	5/1	5/9	5/8	5/12	5/17	5/17

- 注1) 中旬播種区の平年値は、過去7か年中の最高値と最低値を除いた5か年の平均値。
- 注2) 「夏黄金」の中旬播種区は平成28年播種から供試のため、平年値は過去5か年の平均値。
- 注3) 下旬播種区は平成29年播種から供試のため、平年値は過去5か年の平均値。
- 注4) 減数分裂期: 幼穂長が3cmに達した日。
- 注5) 出穂期: 全茎の40～50%が出穂した日。
- 注6) 開花期: 全穂数の40～50%が開花した日。
- 注6) 予測値は予測シートver4.0を用いた値。

4 今後の技術対策

(1) 排水対策

- ・**麦類は節間伸長期から登熟期にかけては、特に湿害に弱い。**粒の充実不良により千粒重が軽くなり、収量・品質が低下する。また、隣接ほ場に水稻が作付けされている場合は、横浸透によって水が浸入するので、排水対策を徹底する。
- ・寒さや降雨等の影響で明渠が崩れているところが見られるので、ほ場をよく見回り、停滞水が発生している場合は早急に改善する。

(2) 追肥

- ・**追肥の目安については、下表を参照のこと。なお、ほとんどのほ場では、幼穂形成期に達しているため、注意する。**
- ・大麦においては、穂揃期の追肥は「硬質麦」の発生を助長するので実施しない。
- ・大麦「ホワイトファイバー」の追肥については、前号を参照のこと。

追肥の種類 (生育ステージ)		幼穂形成期 (幼穂長2～3mm)	減数分裂期 (幼穂長30mm)	穂揃期 (8～9割が出穂)
目的		有効茎歩合増加 (穂数の確保)	一穂粒数の増加 登熟良化	小麦の子実タンパク質 含有率の向上
大麦	時期	シュンライ、ホワイトファイバー ミノリムギ	2月下旬～3月中旬 3月上旬～4月上旬	4月下旬 4月下旬～5月上旬
	10a当たり 施用量	窒素成分2～2.5kg (硫安10～12kg)	窒素成分2～2.5kg (硫安10～12kg)	硬質麦防止のため 実施しない
小麦	時期	3月下旬～4月中旬	4月下旬～5月上旬	5月中旬
	10a当たり 施用量	窒素成分2～2.5kg (硫安10～12kg)	窒素成分4～5kg (硫安20～25kg)	窒素成分2～2.5kg (硫安10～12kg) ※「夏黄金」は2倍

(3) 赤かび病の防除

- ・赤かび病は、開花期前後に降雨が続く、かつ気温が20～27℃程度の場合に発生が多くなる。
- ・防除適期は、1回目が開花始期～開花期、2回目がその7～10日後で、降雨が続く場合は追加防除を検討する。
- ・今年[※]は麦の生育が進んでいるので、早めに防除計画を立て、適期を逃さないようにすることが重要である。

※ 桜の開花と同様に、麦類の生育もかなり進んでいます。追肥や赤かび病の防除は稲の春作業と重なることも考えられるので、早めに計画を立てて効率的に進めましょう！